

活動ピックアップ!

長岡
地域
Nagaoka

大学の垣根を越えて場をつくる

TEDxSuzuranStreet実行委員会



世界中の著名人による様々な講演会を開催・配信している「TED」の公式ライセンスを取得し、長岡でTEDxイベントを企画している学生団体。現在は市内3大学の学生がメンバーとして活動しています。誰もが参加できるコミュニティを駅前で作りたいと、講演会だけでなく、駅前の施設、飲食店を活用したワークショップや交流会も開催。人が出会い、新しい価値観やアイデアに触れられる場をつくっています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS 長岡 みんなのSDGs



持ち味を発揮できる土壌づくり

株式会社 夢ガーデン



株式会社夢ガーデンは、下水由来の原料をリサイクルして肥料を生産している企業が、障がい者雇用を促進する目的で設立した特例子会社です。現在は、年齢も障がい種別も様々な9名のスタッフが在籍。リサイクル肥料の袋詰めや積み込み、農作物の生産販売など特定の作業だけではなく、個々の特性とスキルが発揮できる仕事に取り組める環境を整えています。これからも農福連携の実現に貢献していきたいです。

知る、つながる、好きになる
ながおか市民活動情報誌



「ふれあい」から始まるSDGs

つながるラジオが10周年を迎えました!

毎週月曜日17時からFMながおか(80.7MHz)で放送している、ながおか市民協働センターのラジオ番組「つながるラジオ」は今年で放送10周年を迎えました。「長岡市をよりよくしようと頑張っている人や市民団体について、もっと多くの方に知ってほしい」という想いからスタート。これまでの放送回数は492回※。設立ほやほやの団体からベテラン団体、地域のプレイヤー、社会貢献活動やSDGsに取り組む企業にご出演いただきました。「つながるラジオ」は、これからも地域で頑張る人・市民団体・企業にスポットライトを当て、「協働のまちづくり」を広める一助を担っていきます。 ※2023年7月31日現在。



10年ありがとうございます。
つながるラジオは市民が
主役のコーナーです。
次はあなたとつながります
ように。



FMながおかパーソナリティー
山田光枝さん

出演者やリスナーの皆さまからの声

- ▶ 山田さんの軽妙な語り口と親しみやすいキャラクターでつつい喋りすぎた思い出が残っています。これからもつながるラジオが末長く続くようお祈り申し上げます。
- ▶ 山田さんの優しい声にいつも癒されています。これからも応援しています。
- ▶ 10周年おめでとうございます。次は50周年を目指して頑張ってください!



つなラジ10周年
特設ページはこちら!

センターからのお知らせ

あなたのイベントを、PRしませんか?

あなたのイベントを、協働センターのホームページ「コラライト」に掲載しませんか? 団体のホームページがなくても、インターネット上でイベントのPRができます! ぜひご活用ください。

必ずお読みください

- 掲載できるのは、下記の条件を満たすイベント情報です。
 - 一地域社会や市民のために行う非営利の団体または活動のためのものであること。
 - 一長岡市内で活動している、または活動可能な団体のためのものであること。
- 掲載まで1週間ほどお時間をいただきます。あらかじめご了承ください。



詳しくは
こちら

発行

ながおか
市民協働
センター

〒940-0062
長岡市大手通1丁目4番地10
シティホールプラザアオーレ長岡 西棟3F
Tel . 0258-39-2020
Mail . contact@nagaokakakyodo.net



知る、つながる
好きになる
らこって



つながる
ラジオ



市民活動の
ポータルサイト
コラライト

配布場所

長岡市役所及び各支所、サービスセンターの他、市内図書館、コミセン、子育ての駅等、公共施設に設置しています。



ながおか市民協働センター

特集

長岡市環境部環境政策課
里村 誠さん
特定非営利活動法人 越の里山倶楽部
河合 佳代子さん
たらどり若者会議〜波音〜
木村 勝一さん

NAGAOKA PLAYERS
アイビー
IBさん

活動ピックアップ
TEDxSuzuranStreet実行委員会
長岡みんなのSDGs
株式会社 夢ガーデン

「ふれあい」から始まるSDGs



特定非営利活動法人 越の里山倶楽部
河合 佳代子さん

国営越後丘陵公園里山ミュージアムにおいて、各種体験プログラムや里山保全作業などを実施している「特定非営利活動法人 越の里山倶楽部」所属。2022年度より、環境政策課と協働で、子どもたちが実際に田んぼの生き物を捕まえて観察する「田んぼの生き物観察会」を開催している。



長岡市環境部環境政策課
里村 誠さん

長岡市環境基本条例に基づく環境保全や活用に従事。2022年度より、市民活動団体と協働し、子どもたちを対象にした自然体験活動や、学校でのSDGs教育講座を実施している。



てらどまり若者会議～波音～
木村 勝一さん

寺泊の若者が集まり、釣りやビーチクリーンなど海をフィールドにしたイベントを開催している「てらどまり若者会議～波音～」代表。2022年度より、環境政策課と協働で、海岸清掃をした後、海岸で拾った漂流物を使って工作をする「ビーチコーミング」を実施。

長岡市環境部環境政策課では、長岡市の豊かな自然を守り育てていくために「長岡市環境基本計画」を策定しました。その基本方針の一つである「協働で良好な環境を未来につなぐ人づくり」の一環として、市民活動団体と協働で、SDGs(Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標)を学ぶ自然体験活動を実施しています。今月号では、環境政策課・里村誠さん、そして同課と協働で体験活動を実施している、特定非営利活動法人 越の里山倶楽部(以下、越の里山倶楽部)・河合佳代子さんと、てらどまり若者会議～波音～(以下、波音)・木村勝一さんにお話を聞きました。

「知識」ではなく「体験」を

— 環境政策課さんは、越の里山倶楽部さんとは「田んぼの生き物観察会」を、波音さんと「ビーチコーミング」を開催してきました。こうした自然体験活動を実施するに至った経緯を教えてください。
里村さん(以下、里村): きっかけは、長岡市環境審議会の委員の方から「子どもたちが外で遊び、自然にふれる機会をつくってほしい」というご意見をいただいたことでした。自然にふれて



「田んぼの生き物観察会」で、採取した生き物を観察している様子。普段通う学校に通う子どもたちの間に、コミュニケーションが生まれていました。

もらうことで、自分が自然の中で生きているということを実感してもらえないかと思い、企画を練り始めました。

— 子どもたちが自然にふれる機会が減っているというのは、河合さんも木村さんも思うところがあるのではないのでしょうか。

河合さん(以下、河合): そうですね。日頃子どもたちと接していて、言葉や知識として知っていても、本物を知らない子どもが多いと感じています。例えば、実際に鳥を見て「こんなに小さいの?」と驚いていた日頃テレビで見ていると大きく見えますよね。

木村さん(以下、木村): 僕も、同じことを感じています。子どもたちは、魚に関する知識はありますが、よく寺泊で釣りをしている僕のように、この海のどの辺りに、どんな魚がどれくらいいるのかということとはわかりません。自分で体感することが大切だと思います。

参加者の反応から得た、確かな手応え

「学び」と「楽しい」の両立

— 体験活動では、どのような工夫をされましたか。

木村: 「ゴミ拾い=辛い」というイメージがあるので、そこで拾ったものを使って工作してもらうことで「楽しい思い出」として子どもたちの中に残るようなプログラムにしました。その方が結果的に、「楽しい海を守りたい」と思ってもらえるのではないかなと思ったんです。

河合: 田んぼに住んでいるカエルが、生物多様性やSDGsについて説明する手紙を事前に参加者に送り、「SDGs」という言葉を知っている状態

来てもらえるようにしたことです。私たちの活動は、SDGsの中でも特に生物多様性がテーマだったので、限られた時間の中で、子どもたちに生き物にふれてもらいながら、SDGsについて学んでもらえるように工夫しました。

伝わった、自然の「楽しさ」と「大切さ」

— 当日の参加者の方の様子は、いかがでしたか。

木村: 意図していたよりも、こちらのメッセージが伝わったように感じました。浜辺のゴミ拾いをするので、身近なゴミ問題を自分ごととして捉えてくれていたと思います。

里村: 自分たちで小さなプラスチックゴミを拾うことで、「これを鳥や魚が食べたら大変」と想像してくれたと思いました。参加者の方の様子を見て、参加した子どもたちの意識の変化が周りに伝播していくイメージが浮かびましたね。

河合: 知識が体験と結びついて生まれる感動があったと思います。それは、子どもたちだけではなく、大人も同じ。大人の方が感じた楽しさが、子どもたちに伝わったのではないのでしょうか。自然の楽しさをこちらが教え込まなくても、伝わっていたと感じています。

木村: 親子で一緒に同じことを体感したことによって、共有財産が生まれたのかもしれないね。

— ビーチコーミングでは、予想外の出来事もあったそうですね。

木村: 海岸に着いたら、大量のイワシが打ち上げられていたんです! これは、1年間に数日あるかなりの出来事。思いがけないことが起きる自然の驚きを、感じてもらえたと思います。



「ビーチコーミング」で、ゴミ拾い後に海岸の漂流物を使って工作。思い思いの材料を使い、カラフルで個性的な作品ができました。

協働したからこそ、できたこと

— 今回の体験活動は、行政と市民活動団体の協働で実施されました。

里村: 行政では、ここまで地域密着で専門性の高い事業を実施するのは難しいです。市民活動団体の方と協働したからこそ、私たちになかったアイデアをかたちにすることができました。

木村: 僕たちにとっては、行政から広報していただくことで、団体の認知度が上がるのでありがたいです。

河合: 行政の方が広報してくださることで、これまで里山フィールドに来たことのない方が足を運んでくださいました。また体験からSDGsを学んでもらうプログラムを考えるいい機会をいただいたと思っています。団体の将来につながっていきそうです。

長岡市のSDGsのこれから

— これからも長岡市でSDGsについて取り組んでいくにあたり、大切だと思うことを教えてください。

河合: 今、生活できているからいいという訳ではなく、30年後の子どもたちに何を残せるかを考えることが大切だと思います。学校でもSDGsについて教えていますが、色々な主体があの手この手で伝えていくことで、SDGsに取り組むキーマンが増えていくのではないのでしょうか。

木村: 僕たちのプログラムで言えば、「ゴミを拾うこと=ゴール」ではありません。街でポイ捨てされたゴミは、川を流れて寺泊の海へ流れていきます。そして、海に流れ着いたゴミを全て拾うのは難しい。だからこそ、自分たちの行動の先を考えて、生活を変えていくことが大切だと思います。

里村: 長岡市がもつ自然の豊かさや、そこに住む生物や植物の多様性を知ってもらう機会をつくり続けていくことが大切だと思います。その大切さを知る人たちが増えて、地産地消を心がけたり、環境にやさしい製品を使ったりと、身近な行動につながっていくと、うれしいですね。

環境を守っていく意識を育むためには、知識だけではなく実際に自然にふれる機会をつくっていくことが大切だとわかりました。それは、環境分野に限らず、SDGsの他の目標についても同じことなのかもしれません。実際に体験してみるとではじめて、SDGsで取り扱われている課題が自分ごとになるのではないのでしょうか。

NAGAOKA ウワサのあの人にインタビュー! PLAYERS

アビ
IB さん (40代)

SunDay Jump! Group/世界のお茶の間Ivy/
アフリカンフェスタ! in ながおか実行委員会

2010年、長岡市にUターン。イベント出演や自身のカフェスペースを通じて世界の音楽と文化を届ける。



ご本人の希望により、DJ出演時のロゴを掲載しています。

車いすで開けた、世界とつながる新たな道

ケルト音楽のBGMが心地よい雰囲気の中、「お茶の間英会話Ivy」で様々な世代の方がお茶を飲みながら英語で楽しくおしゃべりしています。「音楽と英会話がつかないでくれるご縁を大切にしながら、世界の文化のおすそ分け(シェア)を楽しんでいます」と主宰のIBさん。

青春時代、外の世界に興味を抱いたIBさんは、北欧の伝統音楽に夢中になり、音楽の道を目指すほどでした。アイルランド留学を経て旅行会社に就職。いよいよ世界各地を回れるというタイミングで、頸椎を痛める事故にあい、四肢に後遺症が残り車いす生活に。好きだった音楽も、海外旅行も自由に楽しめなくなってしまいました。「楽器が弾けなくなったことが一番のショックでした」とIBさんは振り返ります。

その後、少しでも音楽に関わりたくてIBさんは、DJの世界に飛び込みました。「それまでの知識や経験を活かして選曲し、その場の雰囲気を演出します。何よりDJなら指が動かなくても何とかできますから」と語ります。

地元長岡に戻ると、地元の同級生を誘ってDJイベント「SunDay Jump!」を

企画。また、DJをする場を求めて「アフリカンフェスタ! in ながおか」運営メンバーに加わりました。そこでは企画運営や事務仕事なども任されています。アフリカンフェスタ!に関わる中で、映画監督や国際機関の職員、多様な価値観を持つ仲間など、国をまたいで様々な形で活動する人々と出会うことができました。

今ではIBさんは、地元長岡で音楽や海外の文化と一緒に楽しむたくさんの仲間にも囲まれています。楽器演奏はDJブレイク、世界に関わる仕事への希望は英会話カフェへ。手段や場所が変わっても、今もそこにあるのは変わらないIBさんらしさです。誰もが、夢が叶わないこともあるかもしれないけれど、誰でも新たな道を見つけることができる。IBさんの活動はそんな希望を感じさせてくれます。



カフェ「世界のお茶の間Ivy」のCDチャリティー販売コーナー。



伝統と革新が融合する祭「祭る」(2023年6月、小千谷市)にDJとして出演。(撮影koudai)

活動の根っこ

世界の文化のおすそ分けでつながる
IB